

第1回奈良県立高等学校の適正配置検討地域別協議会実施報告

1 実施日程・出席者等

地 域	開催日時	場 所	中学校関係出席者
北 部	1 1月29日(水) 14:30～16:00	奈 良 市 西 部 公 民 館	校 長 5名 P T A会長 4名
中部・西部	1 1月29日(水) 10:00～11:30	橿 原 市 中 央 公 民 館	校 長 6名 P T A会長 7名
南部・東部	1 1月28日(火) 10:00～11:50	高 取 町 中 央 公 民 館	校 長 8名 P T A会長 8名

2 主な意見

(1) 県立高校の特色化について

ア これまでの特色化の成果等

- ・特色化の中で、中高連携をしている十津川高校や、就職率100%という王寺工業高校の取組等は、ある程度の成果は出ていると思う。磯城野高校のパティシエコースについても入学したいという子どもたちが増えてきているのも確か。一方で、特色化を進めきれていない例もあると思う。(南部東部・校長)
- ・磯城野高校が、魅力づくりに成功している。生徒から「かっこいい」という好印象で受け止められている。(北部・校長)
- ・大和中央高校は多様な生徒の受入が可能であり、生徒の進学幅が広がった。(北部・校長)
- ・(総合学科に改編した)二階堂高校の特色化はうまくいっていると感じる。(中部西部・校長)

イ 中学生の進路選択

- ・将来なりたい職業がはっきり決められないので、普通科を選択して、大学に進学してから最終的な就職先を決める傾向にある。(北部・PTA会長)
- ・「とりあえず公立」、「とりあえず普通科」、「とりあえず特色選抜」という傾向がある。(北部・PTA会長)
- ・特色化が進んでくると、進路を決められないまま、どこかを選択しなければならなくなる。15歳の時にそこまで決めるのはなかなか厳しいのではないか。(少なくとも)入学後の進路変更を可能にしていきたい。(北部・PTA会長)
- ・高校3年間にいろいろな経験をし、(仮に)進路の方向が変わったとしても、(高校で)学んで手に覚えたことは無駄にならないと思う。(中部西部・PTA会長)
- ・普段なかなか出会うことのないような職業に就いている人をゲストティーチャーとして呼ぶような取組が、中学生の段階で子どもたちが選択できるようにするためにも重要ではないか。キャリア教育を職業体験に限定するのではなく、もっと視野を広げて子どもたちに紹介していかなければならないと思う。(南部東部・PTA会長)
- ・今までは、「選べなかったら)普通科へ行けば」という形で普通科を選んでき

た。逆に、実業系の学校からは、「普通科へ行くのがもったいない。(専門学科に来たら)就職も、大学等へも行ける。これを中学生が知らないのが本当にもったいない」ということも聞く。(南部東部・PTA会長)

- ・以前の特色選抜は、どのくらいで合格できるかも分からないし、受けて失敗したら、今度また一般で受ける勇気をなくすこともあった。(南部東部・校長)
- ・地域を支える人材の意味が「奈良県で就職をする」ということであると、産業的に難しいのではないか。その中で教育、福祉、文化との出会いを大事にするためには、高校での進路変更を可能にしておく必要がある。最近、実業科からの大学進学も増えている。また、本人のモチベーションを高めるためには、部活動を含めた高校生活の充実も大切。職業ではなく勉強したい内容で高校を選択し、充実した生活を送り、その中で進路変更も可能であるという状況をつくるのが大切。(北部・校長)

ウ 各学校の特色の周知

- ・学科の内容については、保護者が一番知らないと感じる。PTAの役員としても取り組むべきことはあるが、県教委にもホームページを見やすくする工夫などを毎年要望している。産業教育フェアも中学生やその保護者にPRするよい機会ではないか。北部でも開催していただきたい。(北部・PTA会長)
- ・前回の再編について、特色化が進んだと感じるが、それがあまりにも発信されていないという実感がある。ホームページ等を見ても、その学校のよさ、特色が子どもたちには伝わらない状況だと思う。県PTAからホームページの改善を要望している。(南部東部・PTA会長)
- ・PTA主催で高校説明会を実施している。県でも特色ある学科をPRする機会を設けていただくことも必要。(北部・PTA会長)
- ・本年度より新たに市レベルでの説明会も実施し、保護者に周知するためには有効であった。一方で、学科で「何を学ぶか」を生徒が知る機会を与えることができているのではないかと思う。(北部・校長)
- ・費用の面もあると思うが、メディア等の媒体を活用して学校のイメージや学科の情報、特色等を発信していった方がよい。(中部西部・PTA会長)
- ・限られた日数の中でオープンスクールが実施されており、行きたい学校の日程が重なると結局行けなくなる。また、オープンスクールで全てが見れるわけではない。普段の子ども達の様子も見たい。(中部西部・PTA会長)
- ・オープンスクールの日程をばらばらにして、行きたい高校に参加できるようにしてもらえれば親としてありがたいし、子どもももっと実情が分かる。(中部西部・PTA会長)
- ・磯城野高校では地域に学校を開放する行事があり、子どもたちの様子を見ることがや、生産物を購入することができる。他の学校もそういう工夫をしたらいい。(中部西部・PTA会長)
- ・産業教育フェアなどで、それぞれの高校が交流するのは素晴らしい。中学生がもっと参加してくれたらという思いがある。(中部西部・PTA会長)
- ・高校体験はオープンスクールになると思うが、授業や特色ある学校であれば実習の様子などを中学生にもっと見せる状況ができればいい。(中部西部・校長)
- ・それぞれの学校で特色づくりのためにいろいろな科が設置されているが、その学校の具体的な特長を保護者や子どもに説明するのが難しい。(中部西部・校長)
- ・送る側の立場として、(高校の教育内容を)なかなか紹介できていない部分があり、もっと高校と連携しながら、中学校側も高校のことをもっと知るべきだろう。高校側の先生方も、中学校のことをもっともっと知ってほしいという願いもある。(南部東部・校長)
- ・以前から設置されている体育科や音楽科等と比べて、最近設置されたコースは、内容が今一つはっきりしないとを感じる。また、観光ビジネスコース、総合ビジネス

- ・ スコース等、よく似た名前のコースは、どこが違うのか分からないと感じることもある。誰が見ても分かりやすい特色であるべき。(南部東部・校長)
- ・ 学科の名前が複雑化していて、名前を見てもどのようなことを学ぶのか分かりにくい印象がある。(北部・PTA会長)
- ・ 学科の名前が分かりにくいところがあるため、結局普通科を選んでいるのが現状。保護者に希望調査をしても普通科が多い。(北部・校長)
- ・ 特色のある科が増え、自分たちの時代にはなかった名前だけで判断しにくい科もある。子どもは高校名で選ぶ傾向にあるが、今後特色化を進めるのであれば、選ぶ基準となる情報をもっと欲しい。(中部西部・PTA会長)

エ 高校卒業後の進路

- ・ 学校は子どもたちが夢を実現していく方向に支援、手助けしていく場だと思う。高校では進学、就職という出口が一番大事。出口がない状態で、特色化は厳しいのではないかと。また、高校卒業後、専門学校に行かないと取得できない資格もある。(南部東部・校長)
- ・ 保護者としては、子どもたちが充実した高校生活を送り、卒業後には希望の進路を実現してもらいたい。そのコースで何を指し、どういう将来像を描いているのかが見えるような形で設定してもらいたい。(北部・PTA会長)
- ・ 特色選抜で実業系の学校に進んでも結局違う進路を選択している実態がある。将来を決めかねている中学生が多い状況の中、特色のある学校に行ってもなかなか将来にはつながらないところがあるのではないかと。(北部・PTA会長)
- ・ 高校卒業後、どれだけ県内に残っているのか。県外に流出しているかもしれない。地域の活性化といっても、地域に就職口が用意されているのか。専門のことを学んでも、その後どうするのか、なかなか見えてこない。(南部東部・校長)
- ・ 高校の特色化はありがたいが、就職となったときに果たして自分の行きたい求人があるかは子どもたちにとって大きいことなので、進路の開拓に力を入れてもらいたい。(中部西部・PTA会長)
- ・ 職業科は専門学校のように就職先を宣伝にもっと使うべきである。職業科に行くからこそ、(専門を生かした就職を) 目指す子どももいる。(中部西部・PTA会長)
- ・ しっかり先を見据え、職業科等の学校を選べる子どもは少ないのが現実である。新しいコースを作るにしても、出口がどうなるか分からないと、選びようがない。(中部西部・校長)
- ・ 高校に入学してからも、3年間進路を限定するのではなく、様々な芽が出るチャンスとして、進路の選択肢を与えて欲しい。奈良工業では1年目は機械、電気、工業化学、建築、土木全てを広く薄く学んだ。自分の行く科は決まっていたが、いい経験になった。(中部西部・PTA会長)
- ・ 高校入学後の(進路) 変更については、校内でのコース変更や年度ごとのコースの定員など柔軟性をもたせていただきたい。(北部・PTA会長)

オ 特色化の具体

- ・ 奈良朱雀高校のロボットなど、専門性、高いスキルが身につく学科も必要。(北部・校長)
- ・ 体育科、国際科は複数校を設置したことで、多様な進学機会を確保することができた反面、生徒が分散してしまったところがある。特色のある学校は、県内の中心地に置き、どこからでも通えるようにすべき。(北部・校長)
- ・ 磯城野高校のパティシエコースなど、人気があって定員がオーバーしている魅力ある学科は、定員を増やしてもらおうことで、子どもたちの夢や希望が尊重できる。(北部・校長)

- ・今の学科編成では、商業、工業、農業など高校卒業後すぐに自分の職業や進路に直結している学科と、どのような進路に結びつくのが分かりにくい学科がある。
(北部・校長)
- ・ICTや国際化、地域を愛することなどは、普通科の子どもにとっても必要なことであり、それに特化して進めていくことに意味があるのか疑問を感じる。(北部・PTA会長)
- ・普通科の中でも文系、理系に分かれていくので、理数科というのはかえって選択肢が狭まる恐れがあるのではないかと。理数ではなく、ITなどに特化することも考えられる。(北部・PTA会長)
- ・国際化が進み、どの会社に就職しても海外との接点がある。英語以外の中国語、ハングル語、タイ語などを第2外国語として学ぶことができれば生徒にとって有利になるのではないかと。(北部・PTA会長)
- ・御所実業高校はラグビーの全国募集で多くの生徒が各地から集まっている。部活動を目標に高校に入る生徒もいる。(北部・校長)
- ・地域にある普通科の学校と、特色のある学科を同じ学校に置くことで、学校内での隔たり等様々な問題を生じているのではないかと。普通科、専門学科、さらには全国募集など、いろいろなことを1か所でやっている学校は無理が生じている部分があるのではないかと。(南部東部・PTA会長)
- ・福祉科が1校のみに設置されていることから、専門科の先生にとっては異動することもなく、先生方の活性化というのも難しくなっているのではないかと。また、高齢者福祉に特化している部分があるが、多様な進路に対応できるように、幅広い学習できるようなところをもう1校どこかに置いてもいいのでは。介護福祉士の国家試験を最終卒業時には受けることができるのは魅力だと思うが、進路が変わる生徒もいる。そういう意味で、退学者の数にも注目しており、そういう子どもたちをつくらないというのも高等学校の大切なところだと思う。(南部東部・PTA会長)
- ・十津川村には温泉があり、温泉を活用した年中泳げるプールがある。そういったことを活用して、例えば全国募集の水泳部をつくることや、県内の水泳部が冬に合宿に来ることも考えられるのでは。スポーツに関することに特化したことになると思う。(南部東部・PTA会長)
- ・十津川高校には工芸コースがあるが、そこを卒業した生徒が、工芸に関する職業に就いてるかという点、ほとんどの生徒がそうではない。受け皿がないため、教育委員会も行政ともっと連携して、受入先、就職先を開拓してほしい。(南部東部・PTA会長)
- ・山辺高校は企業が県外の高校生を呼び、サッカー部で活動し、サッカー部の監督も企業の人だと聞いた。よいのか悪いのかは判断できないが、仮に他の学校で農業の大きい企業が生徒を呼んで、農業の勉強を高校でさせて、自分の会社に入れるということも考えられる。奈良の企業が(高校生にとっての)出口をつくるためにも、もっと頑張らないといけない。(中部西部・PTA会長)
- ・例えば、磯城野高校の花の栽培での温度管理に対して、奈良情報商業高校で温度管理のプログラムを作り情報交換をすることで、将来コンピュータの能力を発揮して素晴らしい花を作る会社で働く生徒が現れるような連携ができればいい。(中部西部・校長)

(2) 地域を支える人材の育成について

- ・適正化の話が、人口が減るから高校の数をどうするかなど部分的な話ばかりして感じる。奈良県の人口の流出を防ぐために、どういう産業をもってきて、そのためにはどういう子どもを育てる必要があり、そのために特色ある学校をつくるというような大筋がなく、周辺的な話ばかりをしているような印象を受ける。
(南部東部・校長)
- ・奈良県としてはどういう産業を伸ばし、どういう人材を育成しようと考えている

のか。県として何を指そうとしているのかということ踏まえての論議が大切であると思う。(南部東部・校長)

- ・どこでも仕事ができる時代というのは、おそらく近い将来やってくるだろう。そうやってきたら、奈良県内だけのことを考えていたのでは(不十分)という思いがある。(南部東部・校長)
- ・どこの実業科へ行っても、大学にも進学できる、あるいは専門の仕事にも就くことができるというように、どこの高校へ行っても自分の将来が開けるようにすることが重要。高校を卒業して、大学を卒業して、世界へ飛び出して行っている人が、いずれまた地元へ帰ってきて仕事をしてくれるのがよいと感じる。(南部東部・校長)
- ・今の時代に、産業を引っ張ってくるとか、人口を流入させるというのは、不可能に近いようなことだと思う。従来の産業構造を変えて地域を活性化するというような手法では難しいと思う。その意味で、地域に住んでよくしていくというような価値観に変えていくという必要がある。そのためには、キャリア教育が中学校段階、高校段階で極めて弱いと思う。無理にコースを作っていくかなくとも、中学校、高校のキャリア教育を充実することで、地域に生きていこうと選択する子どもたちも増えるのではないか。(南部東部・PTA会長)
- ・地域の強みや課題に対してがんばる子どもたちを育成するというだけではなく、広い意味で世界へ羽ばたいていける子どもたちを育成するという観点も必要。(中部西部・校長)
- ・県教委として、高校に対しての「地域」の定義を明確にして論じるべきではないか。(中部西部・校長)
- ・高校は奈良県全県一区なので、子どもはいろいろなところへ進学するため、中学校を卒業して、地域から離れていっているという感覚が大きい。(中部西部・校長)
- ・地域を支える人材の育成は、中学校あたりから小中連携しながら、地域と連携をしていく中で方向性が見える状況になってくると思う。(中部西部・校長)
- ・小学校のスポーツの大会等、高校と連携している。一緒に活動することにより、地域の中で会話が弾むなどのつながりができる。(南部東部・校長)
- ・職場体験やキャリア教育を通じて地域に出て行く機会が、地域を学ぶ一番大きい機会だと捉えている。(中部西部・校長)
- ・県立高校の配置がない市町村では、全ての子どもたちが市外に出て行くということを念頭に、地域を愛する子どもたちを育てる取組を進めている。(中部西部・校長)
- ・高校生が、高校所在地域の活動に参加した経験を基に、出身の地域が異なっても、帰ったときに自分の住む地域の活動に生かされればよい。(中部西部・校長)
- ・小・中は地域があるから分かりやすいが、高校になると地域が奈良県全体に広がるので考え方の質が変わってくる。奈良で仕事をしたいと思わせるのが大事という意味なのか、仕事ではなくボランティアや地域の活動などをとおして地域に貢献するということが分かりにくい。教員や福祉の仕事、観光の仕事で奈良に貢献するという風にだけとらえてしまうと、そういう教育が自分の子どもたちにとって幸せなことなのかは疑問。一方で、地域に貢献していけるような人間像はとてもよいことだと思う。(北部・PTA会長)
- ・奈良県は歴史のある県のわりには郷土に対する教育が少ないと感じる。奈良県の歴史を学ぶことで、郷土への愛着が生まれ、将来の進路が見えてくることがある。(北部・PTA会長)

(3) 県立高校の配置について

- ・北部は多様な学科があり、生徒はうまく進路選択をしている。教員も生徒の個性を生かした進路指導ができていて感じている。(北部・校長)
- ・今回の検討で地域の学校が減ることになると厳しい。(北部・校長)

- ・奈良県の高等学校は普通科の割合が多いということだが、人口が少ない地域ほど普通科が少なく、都市部の方が普通科の割合が多い。また、中学校卒業時点で将来を決めて入るということであれば特色化に進めばいいが、中学校卒業時点で何になりたいか、そんなに決まってるものなのかと思う。視野を広げていくという意味では、普通科でよいのではないか。(南部・PTA会長)
- ・保護者にとっては交通費は大きな問題。自転車で通学できる地域に学校があることが保護者にとっては理想。多くの生徒の通学費を抑えることができるため、地域の人口にあわせた形でそれぞれの地域に学校が配置される方がよい。(北部・PTA会長)
- ・近辺では前回の再編で自転車で通えるような学校が少なくなった。保護者にとっては目の届きやすいところに高校があって欲しいという思いがある。(北部・PTA会長)
- ・北部に高校が偏っている。南部にも、例えばA Iに特化したような高校など魅力ある高校づくりが必要である。(北部・校長)
- ・全県一区の中で進める適正配置というのは、人口比を踏まえての適正なのか、地域を踏まえての配置なのか、県全体での配置なのかによって変わってくると思う。3ブロックに分かれて議論しているということは意味があると思う。(南部東部・校長)
- ・町立学校で地域のつながりは非常に強い。行事の参加率や卒業後の地元定着率も高い。地元の高校とも地域の文化遺産を利用して様々な活動をとまに行っている。地域のことを大切に思い、奈良県に住んでよかったという意識をもたせることは、小さな地域では可能。西の京高校でも同様の活動をされているが、県全体で同じようなことをするのは難しいのではないか。(北部・PTA会長)
- ・北部、中部、南部の地域ごとに、実情、地域情勢が違う。本市でも小・中学校の適正化の検討をしているが、「文化がなくなる、さびしい。」という声を複雑な心境で受け止めている。(南部東部・校長)
- ・どのような会議に出ても、人口が少ない地域のことを考えてもらえているのかなと感じる。親は大変だが、やはり子どものためだから、一生懸命やりたいことはさせてあげようと思う。スポーツというのは小さい頃からの積み重ねが生きてくると思う。できれば、スポーツに飛び抜けたところを考えてほしい。(南部東部・校長)
- ・総合寄宿舎について、男子の寮の整備について要望しているが、その声が届いているか疑問。(南部東部・PTA会長)
- ・奈良県の特徴として、高等学校での中途退学者数が他府県に比べて比較的高い。公立だから高校に進学できるという子どもたちへのサポートも検討してほしい。公立、私立間の比率等も抜本的に見直して、できる限り公立の学校で受入れできるように検討してもらいたい。(南部東部・PTA会長)

(4) その他

- ・どういう学科を作るとかだけではなく、施設設備に対してどういう予算付けをするか等、もう少し総合的な検討を行ってほしい。(南部東部・PTA会長)
- ・データが少なすぎると思う。感覚的な話で、決めていいのかと感じる。どういうことをもって成功とするのかは、どんなデータが必要なのかを精査して考えていかなければならないのでは。地域の動き、人の流れ等、数値的なものをある程度出していけば、何か見えてくるものをもっとあるのでは。(南部東部・校長)